

平成19年度調査計画及び実施状況

調査項目		実施機関	調査名称等	平成19年度	備考
		林道課	内容		
エゾシカ	エゾシカの植生への影響把握	○	知床における森林生態系保全・再生事業(広域調査)	真幌地区、ルサ相泊地区、隠志別・羅臼地区、連山中腹地区の4地区に(35本の)混合ベルト調査区を設置し、森林植生(林床草本含む)と採食圧を調査	
		○	遠音別岳植生・エゾシカ採食圧調査	知床連山地区におけるエゾシカ採食痕をモニタリングする。過去に登山者の踏圧モニタリング用に設定したサイトを再調査するとともに、より低標高域に新規サイトも設置する	
		○	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査	2005年度、2006年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため羅臼側の相泊から岬地区までの調査を実施	
		○	知床岬草原におけるエゾシカ採食量調査	イネ科草本、ササ群落等の植生タイプごとに採食標を設置、枠内外の植物量を比較して採食量を推定する。	
		○	知床岬植生回復試験調査区モニタリング調査	3ヶ所の植生回復試験区と対照区のモニタリング	
	季節移動把握	○	エゾシカ季節移動調査	標識個体のラジオテレメリー調査による季節移動の把握	
	自然死個体数分析	○	自然死個体分析	岬における自然死個体分析の実施(H19年度春期の死亡確認個体数は0)	※斜里町、羅臼町、知床財団等による独自の取り組みとして主要越冬地での自然死状況調査等を実施中
	シカ生息動向調査	○	航空センサスによる生息動向の把握	航空センサスを12月、3月に実施。	
	○	ライトセンサス(日中センサス含む)による生息動向の調査	ルサ川から相泊川間(羅臼町・毎月)、峰浜地区(道・10月に一回)、幌別岩尾別地区(斜里町・春秋に5日ずつ)でのライトセンサス、真幌地区(財団・2-3月随時)での日中センサスを実施。		
	密度操作実験に係わる調査	○	知床岬における密度操作実験(試験的捕獲)	知床岬でのエゾシカの密度操作実験の実施及び手法の検証	
○	隣接地区(真幌地区含む)における狩猟による捕獲	エゾシカ可猟区における輪採制システム(輪採制)の試験的導入			
土壌浸食状況調査	○	土壌浸食線変動状況調査	知床岬の台地縁部に設置した固定杭を日印として、土壌浸食線の変動状況を調査	※上記採食圧広域調査の一部で植生変化をモニタリング	
ヒグマ	生息状況調査	○	知床キムカムイプロジェクト(H18-20)、ルサ地区生息状況調査ほか	知床半島と隣接地域に生息するヒグマの個体行動圏や移動分散等を現存個体(GPSテレメリー)と過去の捕獲個体(DNA分析)で解明する。その他、食性的変化、繁殖間隔などの把握も実施	※北海道国際航空の支援事業を含む知床財団独自調査
	人間とヒグマの軋轢に関する実態把握	○	ヒグマの管理対策のための基礎的な情報収集	国立公園、市街地周辺での出没状況や産業との軋轢に関する現状の把握	※斜里町、羅臼町委託業務、知床財団独自調査含む
外来種	外来植物	○	アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング(継続)	知床岬周辺でのアメリカオニアザミの駆除作業。過去に駆除を実施した箇所の経過観察。アメリカオニアザミの分布状況調査。駆除作業の検証。	
		○	外来種の侵入状況調査等(新規)	羅臼湖歩道周辺において、外来植物の侵入状況調査、駆除、モニタリング手法を検討するとともに、分布図の作成等を実施	
	外来動物(アライグマ)	○	アライグマの侵入状況調査	アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、状況に応じて駆除を実施する。	
その他外来生物	○	知床連山登山道等におけるセイヨウオオマルハナバチ等の侵入状況調査	セイヨウオオマルハナバチ、ジギタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除		
シマフクロウ	○	繁殖個体数の確認、標識調査	シマフクロウの生息状況、繁殖状況を調査し、幼鳥に標識を装着		
シマフクロウ・海ワシ類	○	ハザードマップ作成	生息状況と死因または阻害要因を整理し、リスクの軽減策について検討。あわせて、事故が起る可能性を評価する地図の作成		
鳥類	海ワシ類	○	海ワシ類越冬個体数調査	海ワシ類の生息個体数をカウントし、生息状況、生息分布をモニタリング(全道での調査)	
		○	海ワシ類餌資源環境実態把握調査	海ワシ類の餌資源に関する分布・環境を把握(全道での調査)	
		○	海ワシ類渡りルート調査	北海道におけるオオワシ・オジロワシの渡りルートに関する知見をとりまとめるとともに、オオワシの渡り状況について現地調査を実施(全道での調査)	
		○	オジロワシ繁殖状況調査	北海道におけるオジロワシの営巣に関するこれまでの知見をとりまとめ(全道での調査)	
	○	海ワシ類における人為的餌資源の影響調査	人間活動と大きく関わる可能性のある餌資源について、分布・個体数等への影響調査を実施		
	○	オジロワシ・オオワシ飛来数調査	釧路川から相泊川区間での飛来数のカウントを実施。	※羅臼町	
森林性猛禽類	○	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマカウ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータ把握		
ケイマフリ	○	ケイマフリ生息調査	ケイマフリの生息海域の分布や繁殖地等の生息状況調査。また、遊覧船等の影響を受ける可能性のある海域での海鳥の分布状況調査等		
植物	希少植物群落	○	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査(再掲)	2005年度、2006年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査の補足調査を実施(再掲)	
	植物相調査	○	知床の植物相調査	知床半島の知床半島海岸部の植物相の調査を行う。	
	植物種インベントリ作成	○	植物種インベントリ作成	北海道大学総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理を行い、知床半島における植物種のインベントリを作成する。	
	シレットコスミレ	○	シレットコスミレの分布	シレットコスミレの分布域を把握し、過去の調査と比較検討を行う。	
	○	シレットコスミレの遺伝的多様性	知床連山及び遠音別岳周辺(H18のみ採取)のシレットコスミレの個体群からサンプルを採取し、シレットコスミレの遺伝的多様性を把握		
	○	知床岬周辺の植生図(1/5000)の作成	知床半島周辺の植生図を作成するための調査を実施。		
菌類	菌類	○	知床半島キノコ相の解明	平成16年から18年にかけての3年間観測地区など10地区で、600種の分布を確認した。19年から20年にかけて、補足調査を行いながら取りまとめを実施する。	※五十嵐委員
	利用圧によるインパクト	○	知床連山の登山道荒廃地点調査(上記のエゾシカ採食圧調査を兼ねる)	知床連山の登山道荒廃地点に設定した5ヶ所のモニタリングサイトで確認調査	※石川委員・知床財団
○	遊歩道の荒廃地点調査	知床五湖・羅臼湖の歩道における荒廃地点の調査			
利用状況	○	利用適正化検討調査	河口部でのサケ・マス釣りや、海域及び先端部地区の利用実態調査等により、利用者の動向や利用による自然環境への影響を把握		
河川	サケ科魚類状況調査	○	ホロベツ川及びルサ川におけるサケ科魚類遡上状況調査	サケ科魚類の対象河川での遡上量(資源量)の推定、分布状況等の把握	
	河川工物の影響評価	○	河川工物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態)及び改良によるサケ科魚類の遡上効果の確認	WGの意見を踏まえた河川工物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態及び遡上率、産卵状況等)	
生態系	海域から陸域への物質輸送	○	カラフトマス・シロザケを捕食するヒグマの生態	年齢および社会的な関係で変化するヒグマの個体ごとのカラフトマス・シロザケを捕食する生態の調査	※野生鮭研究所 2004年から実施
		○	ヒグマなどによるカラフトマス、シロザケの被捕食量に関する研究	河川に遡上するカラフトマス・シロザケの量に対してヒグマなどが捕獲する量を算定する調査	※野生鮭研究所 2004年から実施
○	サケ科魚類による栄養塩輸送に関する調査	サケ科魚類、ヒグマ等の陸上動物及び周辺植生の安定同位体分析や、サケ科魚類の利用状況を通じた、海域から陸域生態系への物質輸送の程度を把握する調査			
インベントリ調査	海の生物相調査	○	知床沿岸の浅海域生物相の把握	知床半島の浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物および海藻・海草類の採集調査(同時に岩礁間帯において貝類の定量調査を実施)	
		○	水中ロボット(ROV)を用いた生物群集のモニタリング	北海道大学院水産科学研究所のROVを用いて実施された知床半島沿岸域の陸棚-陸棚斜面域の海底環境及び生物相の調査データ解析及びスケルトウダラの繁殖行動の観測を行う	
	海藻・海草類	○	海藻・海草類分布状況調査	基礎生産を担うコブ類・海草類の分布状況を音響機器を使用して調査	※岩礁間帯の海藻分布状況調査を実施中(知床財団独自調査)
海棲哺乳類	○	平成19年度は休止(隔年実施)			
魚介類	生態調査	○	主要魚種の食物関係調査	魚類・イカ類群集の食性を調べ、当該海域の食物網を明らかにする。	※同標本を用いて生物学的基礎データの収集を実施中(知床財団独自調査)
		○	バイオロギングによる生物の移動生態調査	音響テレメリー手法を用い、知床沿岸域の生態系におけるキーストーン種であるサケ・マス類、スケルトウダラの行動について定量的なモニタリングを実施する。	
	漁獲量調査	○	主要な魚介類の漁獲統計調査(北海道水産現勢)		
海洋環境	海洋環境調査	○	ウトロにおけるアイスルジー調査	ウトロにおいて、2月末から3月にかけて、流氷のアイスルジーの調査(クロロフィル量、種組成、生理活性等)を行う。	※農産部委員
		○	羅臼沖の深海域における海洋環境および動物プランクトン調査	羅臼湾沖の水深350mより汲み上げている海水の栄養塩の濃度を定期的に定量すると共に、濾過装置に混入する動物プランクトンを収拾することにより、出現種の季節変化を把握・定量化する。	
	沿岸海洋観測	○	衛星画像解析による海洋環境モニタリング	知床を中心として、根室海峡からオホーツク海、そして太平洋の一部に至るまでの水温、流氷分布及びクロロフィルの濃度を衛星リモートセンシングにより定期的に把握し、海洋環境及び基礎生産の変動を把握	
○	水温・塩分・クロロフィルなど海洋観測デバイス設置	様々な海洋生物の動態に影響する環境変動を把握するための基礎となる環境要因データをウトロ沖と羅臼沖の各1地点にて収集			
その他	データベースの整理及びGIS等による統合	○	データベースの拡充	前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。	
	モニタリング指標の開発	○	長期的モニタリング項目の検討	遺産地域の自然環境を適切に管理する上で重要な指標や水準を開発する。	